Kyoto City Child Rearing Support Center Kodomomiraikan

京都市子育て支援総合センター
こどもみらい館
研究・研修だより

# かがやき

Vol.35
2014
11月

こどもみらい館第三期研究プロジェクトは研究を始めて３年目となりまとめの時期を迎えました。
子どもの育ちの連続性研究プロジェクト（子どもの育ちに関するグループ，保幼小連携グループ）と子育て支援研究プロジェクトそれぞれが中間報告会で鯨岡先生，大倉先生からいただいたアドバイスを基にメンバーとともに研究を深めてまいりました。来年１月２６日（月）にこれまでの研究について報告会を開催させていただきたいと思います。各所属のみなさまにもご参加いただき研究に対してのご意見をいただければ嬉しく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 共同機構合同研修会案内

こども みらい館共同機構研修会
京都市教育委員会保・幼・小・中連携推進事業

日　時　　平成26年12月8日(月)　午後3時～5時
場　所　　京都市総合教育センター　１階　第１研修室
内　容　　向島東中学校区における保幼小中連携
～協働活動によって地域の教育課題解決をめざす～

向島東中学校区では，課題のある多くの子どもたちに豊かな育ちと学びを醸成するために，平成１９年より保幼小中連携推進事業の指定（２年間）を受け，この事業を継続させるために，更に平成２４年度に２回目の指定（２年間）を受けました。
本校区の教育課題が山積する中で，保育園（所）・幼稚園・児童館・小学校・中学校がそれぞれの校園館の現状の相互理解を深めながら，“あいさつ運動”，“交流活動”を中心に取組を一歩ずつ進めてきました。今後は家庭・地域の教育力を高めるために，家庭・地域ぐるみで取組む教育を目指していきます。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 発表者 | 向島保育園 | 園長 | 奥山　茂彦 |
| | 京都市立向島小学校 | 教諭 | 高村　朋 |
| | 京都市立向島東中学校 | 校長 | 横田　浩一 |

## 第15回 みらいっこまつり

えがおではばたけ！みらいっこ
－15周年－

日時：平成２６年１２月１２日（金），１３日（土）
１０：００～１６：００
場所：京都市子育て支援総合センター こどもみらい館

（公社）京都市保育園連盟「エアマットであそぼう」，（公社）京都市私立幼稚園協会「みらいっこわくわくコンサート」，京都市保育士会「わくわくステージ・みんなあつまれ」，京都市営保育所長会「赤ちゃんふれあいコーナー」，京都市立幼稚園長会「みんななかよしお楽しみ会 」をはじめ，人形劇，オルゴール，コンサートなどたくさんのイベントが予定されています。また，缶バッジ作り，おもちゃ病院，絵本リサイクル等も行います。保育園(所)・幼稚園の保護者の方にご紹介いただくとともに，先生方も，ぜひとも一度遊びに来てください。
なお，１１日(木)～１３(土)の３日間は，準備とみらいっこまつり開催のため，開館時間が午前９時から午後５時までとなります。ご注意ください。

平成26年度 共同機構研修会　第3回　　平成26年6月16日（月）

京都市保育士会共催

# 主体としての心を育てる保育
## ～今，大切にしたい保育の質～

講師　大倉　得史　京都大学大学院准教授

今の日本の子どもたちは，将来に不安を抱え，自己肯定感が低く，社会のことに関与したくないと思っているというデータがあります。こうした問題について国は，幼児教育の強化を謳い，5歳から義務教育をしようという動きも見せていますが，幼児教育の本来の意味を誤解した「させる保育」「教え込む保育」が増加することによって，かえって子どもの心が育ちにくくなっていく危険性があります。

近年の日本の子育ては「主体としての心を育てる」という営みが破綻しています。保育の目標は，「私は私」の心と「私は私たち」の心をしっかり育み，その折り合いをつけながら両面のバランスをとっていけるような子どもを育てていくことです。それは，子どもを一人の主体とみなして，共に生活をしていくことを通してしか実現されません。子どもは「いま」を一生懸命生きている一人の人間であり，自分なりの思いを持った人生の主人公です。その子の「いま」，その子の思いを受け止めながら，その子がその子なりに自分の人生をどう展開していくかを温かく見守っていくことが，保育者・養育者に求められる態度・構えです。

また，子どもたちもやがては親になり，「育てられる者」から「育てる者」になっていきます。「育てる」という営みが世代を越え，受け継がれていく「世代間リサイクル」を支えるのが，保育者の仕事です。その世代間リサイクルの原動力になっているのは，大人が子どもにかつての自分を重ね，子どもが大人に将来の自分の姿を重ねるという「同一化」の向け合いです。子どもと保育者は互いに育て合うパートナーであり，そういう意味では全く対等な「共に生きる仲間」であるという意識を持っておく必要があります。

子どもとの気持ちの交流が起こる「接面」は，子どもには子どもなりの正当な思いがあること，それを受け止めることでその子は次に向かうのだということを「信じる」ことで初めて生まれてきます。新たな局面で迷いが生じ，また信じる。その繰り返しの中で，悩み葛藤しながらも，徐々に子どもと保育者の関係が深まっていくということの中に，人間としての育ちがあります。そうした手ごたえのある保育を目指してほしいと思います。

この講演会のビデオ・ＤＶＤを貸出しています。貸出要項へ
講義の詳細は，要録ページをご覧ください。　要録ページへ

平成26年度 共同機構研修会　第４　　平成26年7月11日（金）

（公社）京都市保育園連盟共催

# 園児のその先の育ちを支えるために
## ～今，保育者にできること～

講師　森﨑　和代　女性ライフサイクル研究所フェリアン

乳幼児期は人格の土台を作る大切な時期です。親や保育者等身近な大人が「あなたは大切な子だよ」ということを様々な関わりを通して伝えることにより，子どもの中に「私は大切な子だ」と「自分への信頼」が育ちます。これが「基本的信頼」であり「自信」です。「私は大切な子だ」という気持ちがしっかりと育つことにより，「大切な私がどうして人に譲らなければならないの！」という気持ちが出てきます。次には「自分が大切な人であると同時に，隣にいる誰かも大切な人だ」ということや，「世の中にはルールがある」ことを学ばなければなりません。そのためには，子どもの気持ちに共感し，繰り返し伝え，行動の限界をはっきりと示し，気持ちの表現の仕方を教えたり言語化してあげたりすることが大切です。そうして自分の感情を自分でコントロールしていける「自己コントロール」「自律」を育んでいきます。その上に，積極的に人生に取組み，主体的に生きていこうとする力である「自発性」を育んでいきます。そのためには，子どもの「自分でしたい！」を応援することや，子どもの中から出てくる「なぜ」「どうして」を大切にすることを心がけてください。また，子ども自身に選択をさせ，選んで失敗する体験も大切です。失敗から学ぶことを助けてあげましょう。

子どもに関わるときには，「ほめ」が「叱り」を上回るように心がけましょう。そのためには，子どもをよく観察し，なんでもないときにできていることを伝えることがポイントです。そしてして欲しいことを伝えるときには，具体的に短く穏やかに肯定的に伝えましょう。関わりの難しい子どもへの対応においては，「困った子」ではなく，「困りをかかえた子」という視点をもつことが重要です。そして何に困りをかかえているのかを知るためには「気持ちをよく聴く」ことを大切にしてください。

最後に，保育者は体も心もたくさん使う仕事です。それにもかかわらず子どもたちのことを優先し，自分のことを後回しにしてしまいがちです。どうぞ自分のことも大切にしてください。

この講演会のビデオ・ＤＶＤを貸出しています。貸出要項へ
講義の詳細は，要録ページをご覧ください。　要録ページへ

子どもを育む喜びを感じ
親も育ち学べる取組を
進めます。
（「子どもを共に育む
京都市民憲章」より）

京都はぐくみ憲章

この印刷物が不要
になれば
「雑がみ」として
古紙回収等へ！

発行日　平成26年11月20 日
発行者　京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883　中京区間之町通竹屋町下る楠町601-1
Tel (075)254-5001　Fax (075)212-9909
URL　http://www.kodomomirai.or.jp